

【講演テーマ】

『 ネット社会と子ども 』

【講師】

NPO法人 子どもとメディア 常務理事 <sup>みやけ れいこ</sup> 三宅 玲子 さん

【講師プロフィール】



- 子ども劇場の活動をきっかけとして、これまで40年近く子どもに関わる市民活動を続けている。
- 子どもとメディアは、1999年の研究会立ち上げからの設立メンバーで、現在、メディアインストラクターとして、学校や地域に出向き、子どもや保護者への啓発活動を行っている。

【講演要旨】

- 福岡県内の中学校で実施している啓発授業のプログラムをもとに、「ネット社会と子ども」について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
- 「子どもが小さければ小さいほど親のメディアとの付き合い方をよく見えています」スマホを小さい子どもが使いこなしているのを見ると怖い気がしています。

1. 情報体力はついていませんか？

①あなたはどのタイプ？

「つながり型」

「コンテンツ型」

「ゲーム型」

LINE、Instagramなど

YouTube、tiktok など

ゲーム

自分がどのタイプかを知っておくことで、メディアとの付き合い方をコントロールする力になります。

②例えば「ぴえん」ってご存じですか？

(若者言葉の一つで、残念で悲しい意味、泣いていることを表します) 😞

昨年7月、Twitterに次のような書き込みがありました。さて、あなたならどうする？

“終電を乗り過ごした「ぴえん」”

⇒今すぐシェア？ 先ずコメント欄へ？ 「ぴえん」を検索？ スルー？

自分がどの情報に飛びつくのかを知っておく事で、自己コントロールする力になります。

○情報のファクトチェック(真偽検証)の実施

○情報を発信するときのマナー・ルールの順守

○情報体力をつけるには？

いろいろな人の意見を聴く、たくさん本を読む、新聞も複数を読み比べてみる、自分とは違う意見を持つ人の意見を聴いてみるのが大切です。

○映画「少女たちの10日間」

(2021年5月封切)を紹介します。

12歳の少女に扮した3人の成人女優が体育館に個室を作り、SNSを使ったらどうなるか?というドキュメンタリーです。結果は、10日間で2,548人の大人(ほぼ男性)のアクセスがあり、子どもに性的挑発をするような言動が多数見られた衝撃の映画でした。

○相手が子どもであってもネット被害はいつでもどこでも起こります。

○熊本県警が2019年3月に発行した「30分で読める!スマホに弱い大人の教科書~捜査現場と学校現場から見た本音~」からの事例を紹介します。被害少女の保護者に初めて事件内容(裸の写真を送ってしまった)を説明するときのショックが大きいそうです。ネット被害は男女関係なく起こっています。

○福岡県青少年育成課が発行している「ネットトラブル相談窓口」(当日配布資料)を紹介しておきます。福岡県では青少年が裸の写真を持っているだけで条例違反となりますが、たくみに裸の写真を送らせる手口があり被害者が出ています。

○LINEなどで写真や文書など送る前にちょっと考えてみましょう!

誰に見られても大丈夫か?その情報はホントなのか?送って困る人はいないか?

自分の未来を傷つけることにならないか?顔認証が発達しており検索されるリスクがあります。

## 2. ネット使いすぎているいませんか?

○ネット依存治療を行っている病院の受診者の8割が小中学生というデータがあります。

次の10項目でいくつ当てはまりますか?※1~3個と4個以上(高依存)が分岐点です。

- ① スマホのない生活は考えられない
- ② スマホが手元にないと不安です
- ③ 友だちと遊んでいてもスマホをいじっています
- ④ しなくてはいけないことがあってもスマホを使います
- ⑤ 予定の時間がきてもやめられません
- ⑥ 使っているとなんとなくほっとします
- ⑦ スマホを忘れたら家に取りに帰ります
- ⑧ 気がつくと何時間も使っています
- ⑨ 寝る時も近くにないと落ち着きません
- ⑩ 食事をしながらいじっています

○使いすぎると身体(脳、耳、目など)への負荷により悪影響が出てきますが、その一方で、ゲームにのめり込んで体調を崩した人が、人との関わりから筋トレにヒントを見出し立ち直った事例もあります。

(特)子どもNPOセンター刊「ふくおか子ども白書2021」より紹介

○コロナ禍による長期間の休校で、文科省のGIGAスクール構想（義務教育を受ける児童生徒のために、1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備する4年計画）が前倒しされスタートしました。文科省でも、視力低下を予防するために、姿勢よく（目から30cm以上離す）、遠くを見る（30分に1回20秒以上）、寝る前には使用しない（就寝1時間前）などの注意喚起が行われています。

※30cm、30分がポイントです。睡眠時間を十分に確保（小学生10時間）しましょう！成績にも影響が出ます。

### 3. あなたの生活をどう変えていきますか？

○次のことを実践していくことが大切です。

- ・影響が少ないのは1日1時間未満の利用
- ・どんなに正しく使っても心身に弊害があることを理解する
- ・学校の授業でも使用するので、使用時間や使用内容を自分自身でチェック
- ・スマホ・ネットは必要なことだけに使う
- ・なぜそれが必要か、なぜ使いたいのかを親子で話し合う
- ・充電はリビングで、夜10時にスイッチオフ、学習時間はスイッチオフ
- ・寝る1時間前にはスマホを見ない
- ・未成年者は、法的、社会的、経済的に責任は取れないことを理解
- ・早めのSOSを出してほしい。大人は、結論は出なくてもじっくり話を聴いてあげる
- ・誰にも相談できないときには「チャイルドライン」0120-99-7777を利用

○あなたにできるもう一つのこと！

・「スマホに子守をさせないで」（日本小児科医会のポスター）

子どもは親だけで育てるのではなく、社会全体で育てていくもの

・小さい子どもには、目を合わせて話してあげることが大切。（向ける目線と声掛け）

・触れ合って、生身のコミュニケーションの中で「いいね！」ができる社会にできたらいいですね。

○ネットは必需品ですが、「人権侵害」など私たちの権利がネットでどれくらい歪められているかということも見ていただきたい。

○皆さんの周りの子どもたちともぜひ話をしたいと思っています。



人権講座のようす